中国における「AI生成コンテンツ」特許出願の規制と実務対策

中国では、AIが直接生成した未検証の特許出願書類や実験データに対する規制が強化されている。AI関連発明そのものは保護される一方、AIによる架空生成（非正常申請）は予備審査不通過や厳罰の対象となるため、人間の検証と開発記録の証明管理が不可欠となっている。

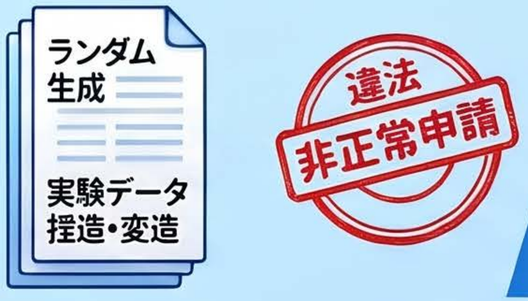
AI直接生成に対する規制と主要リスク

AI直接生成内容の出願利用・予備審査不通過



南京等の予備審査において、AIが直接生成した文章やデータを含む案件は不通過とされる。

「非正常申請」規制（局令77号）の適用



ランダム生成や実験データの捏造・変造は、既存の違法な非正常申請として処理される。

CNIPA（国家知識産権局）が提示する3大リスク



情報漏洩リスク　ハルシネーションリスク　不誠実申請リスク

出願文書作成へのAI利用に対し、情報漏洩・ハルシネーション・不誠実申請のリスクを公式警告。

企業に求められる実務対応と適正な保護

人間の検証と研究開発原記録（プロベナンス）の保存



発明者の創造的寄与や実験データの真正性を裏付ける証拠の管理が重要となる。

真正なAI技術発明の保護と発明者要件



AI技術自体の保護規定は拡充されているが、発明者は自然人に限られる（DABUS事例等）。

Gemini Notebook